

## 2020 年度事業報告

### 1. 2020 年度 重点事項と評価

イ. 新しく生まれ変わった常設展示の普及と、未だ生き続ける渋沢栄一の精神と行動を改めて問い、検証する。

⇒ 当初は昨年 3 月 28 日に展示室のリニューアルオープンを予定しており、それに向け半年間を費やし全ての工事を完了し準備してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開館を見送っていた。1 回目の緊急事態宣言解除後、換気設備やサーモカメラなど安全に開館するため必要な設備を整備し、展示物の触手対策等の感染防止対策を行い、11 月 19 日に一般の方々に公開することができた。感染状況にあわせ来館者数の制限や開館日数の縮小など行いながら、また来館者への丁寧な対応を心掛けながら開館を行った。

⇒ 新型コロナウイルス感染の影響により、リニューアル二期工事や、その他事業についても執行の遅れが多く発生した。その一方、職場内のアクリルパーテーションの設置や手指消毒の徹底、在宅勤務の実施や時差通勤、zoom の活用など、短い期間でアフターコロナの働き方改革を推し進めることができた。専門家の間では新型コロナウイルスの影響が今後 1~2 年続くとも言われており、引き続き状況を見極めながら種々の検討を行っていく。

## 2. 研究企画・史料館グループ（研究センター）

### (1) 重点事項と評価

イ. 『渋沢栄一と「フィランソロピー」』シリーズ出版を確実に行う。

⇒ 既刊の1巻、2巻、5巻に続き第6巻を刊行した。

ロ. 「論語とそろばん」に関する新規プロジェクト準備に着手する。

⇒ 新期プロジェクトとして『論語と算盤』英訳の準備を予定していたが、着手できなかった。

### (2) 事業内容

イ. 寄付講座

(イ) 華中師範大学寄附講座：同大学とは学术交流、渋沢栄一研究の協力体制にあり、同大学へ渋沢栄一関連書籍の寄贈を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により郵送ができなかった。

ロ. プロジェクト研究成果の出版

(イ) 比較思想プロジェクト：  
プロジェクトの成果として Melissa Williamus 氏による『Deparochializing Political theory』（ケンブリッジ大学出版）が2020年3月刊行。

(ロ) フィランソロピーシリーズの出版

A. 2021年3月、渋沢栄一と「フィランソロピー」シリーズ第6巻『社会を支える「民」の育成と渋沢栄一—未来を拓く、次世代を創る—』（見城悌治編著、ミネルヴァ書房）が2021年刊行。

B. 現在は、3巻、4巻、8巻に先行して第7巻の刊行準備が進行中。当初の予定からは遅れが見られるが、引き続き毎年1巻ずつ刊行していくよう着実に進めている。

(ハ) 産業技術導入における実業家のリーダーシップ：  
国内外の近代産業遺産を見学し、技術移転について研究、その成果として David B. Sicilia and David G. Wittner 編著“Strands of Modernization: The Circulation of Technology and Business Practices in East Asia, 1850–1920” (トロント大学出版) が 2021 年刊行。

## ハ. 渋沢栄一研究の促進

### (イ) 論語とそろばんセミナー

#### A. 「論語とそろばんセミナー」の開催

今回で 11 回目である『「論語とそろばん」セミナー2021』は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初のオンライン配信（録画配信）で開催をした。

配信期間は、2021 年 3 月 1 日～3 月 31 日。申込み数 258 名。プログラムは井上潤、クリスティーナ・アメージャン氏による講演と、守屋淳氏による栗山英樹氏と井上潤の経営者インタビュー。『論語と算盤』に象徴される渋沢栄一の思想と行動から、現代の日本社会、企業経営、リーダーシップのあり方を多角的にアプローチすると内容となった。

参加者からオンラインのメリットを評価していただく言葉をいただく一方で、対面のセミナーを希望する声もあった。今後もセミナーを継続して実施できるよう、社会状況を鑑みながら実施形式に囚われず開催・運営方法を検討し、可能な限り参加者の希望に応じていく。

#### B. 『論語と算盤』読書会の運営

2019 年 9 月、49 名の参加者で第 9 期が開始したが、2020 年 3 月（第 7 回）以降、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より同年 7 月までのすべての回が中止となった。

この状況を受け、感染リスクに実施を左右されないオンライン形式で再開するために 3 回の実験的試行を行い、2020 年 9 月から「オンライン読書会」として再スタートした。これまでの読書会同様に毎月第 3 水曜日、全 11 回の内容で実施。

また、本読書会は第 9 期の仕切り直しという形で実施をしているため、参加者は第 9 期参加者を対象としており、継続して参加を希望したのは 30 名。そのため、2020 年度の参加募集は見送ったが、2021 年度は 8 月を目途に募集を予定している。

#### C. 経営者インタビューの実施

新型コロナウイルス感染防止の観点より経営者インタビューは実施しなかった。

<p>(ロ) 合本主義： 第 2 フェーズのトルコについては、本プロジェクトの研究成果物として Asli M Colpan and Geoffrey Jones 編著による“ Business, Ethics and Institutions The Evolution of Turkish Capitalism in Global Perspective”が 2019 年に刊行。東南アジアについては、2018 年度に実施したワークショップやフィールドワークを踏まえて、出版準備を進めている。現在は執筆の最終確認を行っており、編集に時間を要している。</p>
<p>(ハ) 儒商会議： 2013 年より北京大学世界倫理中心が主となり行われてきた「儒商対話」の開催を北京で行うことになっていたが、新型コロナウイルスの影響により開催されなかった。</p>
<p>(二) 協賛・助成・支援事業</p>
<p>A. 協賛：「第 37 回渋沢・クローデル賞」へ協賛し、賞金を贈呈。第 37 回渋沢・クローデル賞受賞者講演会（2020 年 9 月）にも協力した。</p>
<p>B. 助成：2020 年度より、当面の間、助成事業を停止している。</p>
<p>C. 支援：経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版を支援。なお、2019 年度より紙媒体からオンライン・ジャーナルへと移行。</p>

<p>二. 新規プロジェクト： 『論語と算盤』英訳の準備を予定していたが、新型コロナウイルスの影響や渋沢への社会の関心の高まりに応じて生じた業務の対応により着手できなかった。</p>
---

3. 研究企画・史料館グループ（史料館）

(1) 重点事項と評価

イ. 2020 年 11 月までの完成をめざし渋沢史料館リニューアルの設計にもとづき、展示等の 2 期制作・工事を実施する。

⇒ 延期していた渋沢史料館リニューアルオープンを 2020 年 11 月 19 日に行った。リニューアル 2 期制作業務については、新型コロナウイルスの影響を受け、予定が延びたが、デジタルコンテンツ・映像制作を行った。

(2) 事業内容

イ. 渋沢史料館入館者数及び史料館収入の推移

2020 年度 入館者合計 1,347 人 入館料収入 336,140 円

ロ. 展示

(イ) 常設展の展示替え：3 件

ハ. 資料収集

(イ) 受贈資料：2 件

(ロ) 購入資料：15 件

(ハ) 受贈・交換図書：約 1,000 件

(ニ) 購入図書：13 件

ニ. 資料整備

(イ) 除塵・防黴作業

(ロ) 資料のくん蒸作業

(ハ) 館内環境調査

ホ. 資料の活用

(イ) 資料閲覧等件数 : 35 件

(ロ) 資料貸出件数 : 233 件

(ハ) 展示・出版・放送等協力 : 371 件

ヘ. 図書等の刊行

(イ) パンフレット、解説シート類 : 14 件

(ロ) ミュージアムグッズ類 : 7 件

(ハ) その他 : 3 件

ト. 調査・研究

(イ) 館員による執筆・寄稿など : 60 件

(ロ) 渋沢栄一の漢詩の訓訳、注釈作成作業

(ハ) オーラルヒストリー事業

(ニ) 当館所蔵「渋沢敬三旧蔵手帳」の翻刻及び調査

(ホ) 渋沢栄一邸に関する調査
(ヘ) 穂積歌子日記関係

チ. 建物公開

国指定重要文化財 晩香廬・青淵文庫内部公開 2020 年 11 月 19 日～2021 年 3 月 31 日
---

リ. 館員の館外活動

(イ) 講演・講座・出張授業等：79 件
(ロ) 博物館等視察：6 件
(ハ) 資料調査・出品交渉・諸打合等：3 件
(ニ) 研修会・講演会等への参加：5 件
(ホ) 委員会・打合せ：45 件
(ヘ) 三館関係会議等：16 件（三館打合せ会議：12 件、三館学芸部会議（本会議）：4 件）

ヌ. 常設展示等リニューアル

リニューアル常設展示等の制作
----------------

#### 4. 情報資源グループ

##### (1) 重点事項と評価

イ. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』  
全文公開へ向け、別巻第1～4の公開準備

⇒ テキスト搭載のための各種 ID 検討、第1・第2マスター・ファイル整備

ロ. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図  
社会公共事業変遷図追加公開開始

⇒ 新規変遷図（一般教育 C）公開

ハ. 実業史錦絵絵引  
国際規格「IIIF」を採用した「絵引ギャラリー」のリニューアル

⇒ HTML5 版「絵引ギャラリー」公開

##### (2) 概観

イ. 新型コロナウイルス関連

・情報資源グループが作成・公開するデジタルアーカイブは、コロナ禍においても途切れることなく渋沢栄一および実業史関連情報資源を提供することで、財団事業に持続可能性を与えている。

・閲覧室を持たず非来館型のリモート・サービスを事業の中心に据えるというビジネスモデルは、図書館界から注目された。

ロ. NHK 大河ドラマ「青天を衝け」関連

・2021年1月と2月（大河ドラマ放送開始月）の月間閲覧数を比較すると、デジタル版『渋沢栄一伝記資料』と「実験論語処世談」は約2倍、「渋沢栄一ゆかりの地」は約3倍、「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」は約4倍の増加率となり、情報資源グループが作成・公開するデジタルアーカイブは、大河ドラマが与えるインパクトをしっかりと受けとめることができた。

(3) 事業内容

イ. 各種デジタル資料・データベース開発の継続

(イ) 社史プロジェクト

A. 「渋沢社史データベース」

(A) 更新：データ約 29,973 件追加、既搭載データの修正ほか

(B) 利用状況 (4/1-3/31)：セッション数 524,965 (前年同期比 123.37%)、ユーザー数 456,384 (同 121.86%)、ページビュー数 2,479,938 (同 125.08%)、世界 125 カ国から利用

(C) 情報発信：社史紹介 12 件 (ブログ)

B. 「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」

(A) 更新：新規変遷図（「社会公共事業」一般教育 C）の公開、既掲載変遷図の改訂等

(B) 利用状況 (4/1-3/31)：セッション数 84,192 (前年同期比 113.05%)、ユーザー数 72,768 (同 111.35%)、ページビュー数 223,596 (同 129.88%)、世界 41 カ国から利用

(C) 協力事業：正式版となったジャパンサーチと連携

(D) 外部連携：北区立中央図書館への変遷図ポスター貸出・展示：期間延長 (2021/12 まで)

C. 企業史料プロジェクト

(A) メルマガ「ビジネス・アーカイブズ通信」配信・Web 掲載：4 件（3/31 現在、購読者 1,084 名）

(B) 情報発信：『デジタルアーカイブ・ベーシックス.5 新しい産業創造へ』（勉誠出版、2021 年 5 月刊行予定）、“SBA Business Archives in International Comparison”原稿入稿。第 9 回ビジネスアーカイブの日オンラインシンポジウム（11/6、企業史料協議会）モデレータ、基調講演

(C) Web コンテンツ「実業史リンク集」：情報のアップデート、増補改訂

(ロ) 実業史錦絵プロジェクト

A. 実業史錦絵絵引

IIIF 画像リポジトリをバックエンドとした「実業史錦絵絵引」のシステム・リニューアル第二弾：「絵引ギャラリー」HTML5 版公開（Adobe Flash サポート終了によるセキュリティ対策）（12/23）

(ハ) 渋沢関係情報資源開発

A. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

(A) 二次利用条件の設定：『伝記資料』全巻について原則「クリエイティブコモンズ 表示 4.0 国際（CC BY 4.0）」とする決裁を得る

(B) 更新：引用資料公開件数 200 件増加ほか

(C) 別巻：国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「TEI を用いた『渋沢栄一伝記資料』テキストデータの再構築と活用」のサポート（デジタル・リソース提供、環境整備等）、成果発表（3 件）、マスター・ファイル（テキスト、画像）整備

(D) 『渋沢栄一伝記資料』英訳網文：第 4 巻公開

B. 渋沢関係情報発信

(A) 渋沢栄一関連情報資源専用プラットフォーム：サーバー移転（セキュリティ対策）

(B) 機関リポジトリ：オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 参加登録 (9/17) ほか、GitHub に財団アカウント設定

(C) Web 上の情報発信 (ブログ更新 60 日)  
「栄一関連文献」3 件追加、「新紙幣の肖像 (2019 年 4 月 9 日発表) に関する報道などから」 (期中 51 件) ほか

(D) 『青淵』：連載「わがまちの渋沢栄一」4 件

ロ. 実業史研究基盤整備

(イ) 基盤整備：資料収集 143 点、資料整理 735 点、保存対策 (保存箱、修理製本)、収蔵庫・書庫環境改善プロジェクト参加

(ロ) 情報発信・環境整備

A. 情報資源グループの事業に関する記事執筆・講演：20 件

B. レファレンス回答、ウェブサイト更新ほか

C. 外部連携：北区立図書館 職員研修用資料の作成・提供ほか

D. 財団広報連携：Facebook でのデジタルアーカイブ紹介、デジタルアーカイブ広報用リーフレット／ポスター作成ほか

ハ. 協力事業

(イ) 国際アーカイブズ評議会 (ICA/SBA)

(ロ) 渋沢敬三記念事業「渋沢敬三アーカイブ」：「eReading」の SSL 対応 (2/15)

5. 総務・渉外グループ

(1) 支部の状況 (2021 年 3 月末現在 16 支部)

京 都	仙 台	山 形	野 田	盛 岡	秋 田	酒 田
宇都宮	香 取	氷 見	岡 谷	小 諸	海 匝	茨 城
白 河	深 谷					

※ 支部名に網掛けのあるのは、本部で会費徴収事務を代行している支部

(2) 維持会員数・会費収入の推移 (過去 3 年)

(単位：人数、社数、口数は 1、会費収入は千円)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合 計
	人 数	会費収入	社 数	口 数	会費収入	
2018	1,321	6,465	247	1,320	13,230	19,695
2019	1,365	6,553	248	1,348	13,310	19,863
<b>2020</b>	<b>1,316</b>	<b>6,448</b>	<b>253</b>	<b>1,311</b>	<b>13,160</b>	<b>19,608</b>

(3) 寿杖

2020 年度 寿杖会員：7 名

(4) 講演会開催

イ. 支部講演会

開催なし

ロ. 提携講演会（提携先：みずほ総合研究所株式会社）

年 度	東京・関東会場		大阪・関西会場		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
2018	12 回	243 名	12 回	30 名	24 回	273 名
2019	11 回	227 名	10 回	25 名	21 回	252 名
2020	0 回	0 名	0 回	0 名	0 回	0 名

(5) 機関誌『青淵』の発行

2020 年 5 月号（854 号）～2021 年 4 月号（865 号）：発行部数：3,300 部/月

(6) 関連事業

イ. 第 37 回 渋沢クロードル賞

ロ. 第 19 回 渋沢栄一賞

ハ. 第 10 回 渋沢栄一ビジネス大賞

2020 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。